

# 映画「ぼけますから、よろしくお願いします。」の上映会を開催

市では、令和2年度に新型コロナの影響で中止となっていたドキュメンタリー映画の上映会を開催します。市民の皆さんが映画を通じて、在宅等での療養が必要になったときをイメージしながら、必要なサービスを選択できるのか等を考える機会となることを目的としています。ぜひご参加ください。

日時…2月11日(土・祝) ①9:30～12:00 / ②13:30～16:00

場所…市役所2階会議室

内容…二部構成で行います。

(一部) 主催者挨拶・見どころ紹介・映画上映(102分)  
 <途中休憩あり>

(二部) 交流会

ファシリテーター 白生会胃腸病院 地域連携室長 原田恵子氏  
 テーマ「在宅等での療養について考えよう」(25分)  
 ~映画の感想を共有しましょう~

定員…各回50名(先着順) 料金…無料

申込方法…2月6日(月)までに、電話・FAX(様式自由)・メールにて、氏名・電話番号・年代をお知らせください。

問い合わせ先…地域包括支援課 内線2461/FAX34-1018  
 電子メール houkatsu@city.goshogawara.lg.jp



**母、87歳、認知症。**  
**父、95歳、初めての家事。**  
 広島県呉市。この街で生まれ育った「私」(監督・信友直子)は、ドキュメンタリー制作に携わるテレビディレクター。18歳で大学進学のために上京して以来、40年近く東京暮らしを続けている。結婚もせず仕事に没頭するひとり娘を、両親は遠くから静かに見守っている。  
 そんな「私」に45歳の時、乳がんが見つかる。めそめそしてばかりの娘を、ユーモアたっぷりの愛情で支える母。母の助けで人生最大の危機を乗り越えた「私」は、父と母の記録を撮り始める。だが、ファイナダーを通し、「私」は少しずつ母の変化に気づき始めた…  
 病気に直面し苦悩する母。95歳で初めてリンゴの皮をむく父。仕事を捨て実家に

帰る決心がつかず揺れる「私」に父は言う。「(介護は)わしがやる。あなたはあなたの仕事をせい」。そして「私」は、両親の記録を撮ることが自分の使命だと思い始め—  
**大反響のテレビドキュメンタリー、待望の映画化。**  
 娘である「私」の視点から、認知症の患者を抱えた家族の内側を丹念に描いたドキュメンタリー。2016年9月にフジテレビ/関西テレビ「Mr.サンデー」で2週にわたり特集され、大反響を呼んだ。その後、継続取材を行い、2017年10月にBSフジで放送されると、視聴者から再放送の希望が殺到。本作は、その番組をもとに、追加取材と再編集を行った完全版である。娘として手をさしのべつつも、制作者としてのまなざしを委する両親にまっすぐに向けた意欲作。

ひとり娘  
ドキュメンタリー監督  
**信友直子**

1961年広島県呉市生まれ。東京大学卒業。在京キー局で数多くのドキュメンタリー番組を手掛ける。放送文化基金賞奨励賞、ニューヨークフェスティバル銀賞、ギャラクシー賞奨励賞など受賞多数。

港町呉は坂の多い町でもあります。買い物するにも一苦労。結婚以来、父と母はずっとここで暮らしてきました。

